

平成 31 年春期 六浦西地区推進連絡会

1 日時

平成 31 年 2 月 22 日（金） 18:00～20:30

2 場所

湘南八景自治会館

3 参加者

地域側：79 名（学校関係者含む）

支援チーム、その他行政側：20 名（六浦消防出張所長含む）

4 議事

(1) 開会の挨拶

六浦西地区社会福祉協議会 会長 佐波 弘之

(2) 出席者紹介

(3) 事例紹介と発表

【以下ア～ウについては発表内容要旨】

※意見交換はなく、地域の取組のビデオ紹介及び平成 30 年秋期六浦西地区推進連絡会のグループ発表を実施

ア講座(認知症講座等)の取組について

<全体として>

- ・各自治会では住民を対象にした認知症講座を実施。DVD で家族向けの講座を開催。
- ・高舟台小学校では 4 年生を対象に、認知症の理解や家族との良い関係、子どもへの啓発もかねて実施している。
- ・個人情報保護が邪魔をしていると感じることがある。孤独死が無いようにみんなで見守る体制にしたい。
- ・“一人暮らしサロン”など限定的な名称をつけると参加者が少なくなるため、誰もが参加できるよう枠を撤廃した。
- ・(認知症予防にもなる) マージャン教室は男性参加者が多い。参加回数が増え、徐々に交流が生まれ、その方の情報をキャッチできるようになった。
- ・活動を積み重ねることで参加者とコミュニケーションがとれ、ひいてはニーズ発掘につながられ、より参加者の望む形で実施できるようになる。

<今後取り組んでみたいこと>

- ・(継続して) 講座を引き続き続けること

- ・学校と一緒に取り組むこととして、昔ながらの遊びを子どもたちに伝えていきたい。
- ・認知症のマイナスイメージを持たないようにするネーミングにする。
⇒認知症の方にどのように対応するか、ならないための取組み。
- ・担い手が高齢化している。若い世代が参加できるよう、魅力ある活動にしていきたい。

イ カフェの取組について

<全体として>

- ・足の具合が悪い方の送迎。
- ・季節感とめずらしさを取り入れる。(歌・絵・言葉・茶菓。ex.脳トレゲームに百人一首で坊主めくり等)
- ・参加には民生委員の呼びかけ、ロコミ、掲示場を利用。チラシも色やイラストを工夫すると見て来たとき褒めてもらえるのが嬉しい。
- ・参加者のモチベーション維持のため、練習成果発表の場を設けた。
- ・参加費無料・申込不要にしたことで、参加の門戸が広がった。
- ・子ども食堂の運営にあたって、珍しい料理や季節を感じる事ができるものをメニューに加えることで、大勢に楽しんでもらうよう心掛けている。
- ・参加者確保に課題があり、「参加すれば楽しい」ことを積極的にアピールしている。
- ・坂が多く会場まで来ることが大変なため、徒歩圏内で通える場所が必要。
- ・ボランティアが少ないと一人あたりの負担感が増えてしまうので、もっと確保したい。
- ・また来たいと思ってもらえるよう、ボランティアのスキルアップが不可欠。
- ・認知症に限らず、集まれる機会を作ること。茶話会や体操など高齢者向けの内容が多い。

<今後取り組んでみたいこと>

- ・集まりにありがちな「だんだん人数が減少」という課題がある。
→「メンバー固定化」とならないよう、また「出来ないから行かない」という気持ちにならぬよう、参加者のレベルを見ながら内容を工夫する必要がある。
- ・子供～シニアまで、世代を超えて様々な経験を持った人が集まることで、相互に刺激しあい交流できる場を目指したい。
- ・肩の力を抜いて無理なく取り組み、できることを一步一步やっていきたい。
- ・年齢層を広くとらえ、参加者のニーズ調査。
- ・やりたい人が続けられるような柔軟な組織にするため、規約を整備する。
- ・気楽な小グループの集まりをつくる。⇒会場は自宅から近い会館がよい。

ウ 体操の取組について

<全体として>

- ・参加者が5分くらいで集まれる場所に会場を設定している。
- ・掲示版で周知するほか、個別に声掛けすることで「自分が誘われた」という特別感を得てもらいやすい。
- ・性別でアプローチ方法を工夫。男性はスポーツなど成果がでるもの、女性はおしゃべり・お茶などの楽しみを期待してくる人が多い。
- ・認知症予防のためと声を掛けても、「認知症」という単語に抵抗感を示す住民が多いので、「いきいき」「健康維持」等プラスイメージを持ってもらうよう表現を工夫している。
- ・夏休み終了後もラジオ体操が継続されており、子供たちとの多世代交流が続いている。
- ・元気がない人をどうするか。→高齢者の誕生会には来る人も。カラオケをしたり、マージャンをするのもよいと思う。
- ・とにかく細く長く定期的に続けることが良く、状況により日程を増やすなどする。
- ・参加者に必ず声掛けをする。他の人と話せるきっかけを作るなど。

<今後取り組んでみたいこと>

- ・男性の参加を増やしたい。参加を促すにはお酒をセットにするのもありか。
- ・住民の多くが興味のある内容で講座を企画、その中で体操事業をアナウンスして参加を呼び掛けている。
- ・グループ討議を通じて、体だけでなく、心身両側面の健康（頭の活性、心のコミュニケーション等）が重要であるとの共通認識が持てた。
- ・男性に対しては、男性限定、子連れでの参加、若い女性のインストラクター起用、ポイント達成のプレゼントや月間・年間大賞等。女性にも参加すると良いことがあるPR。
- ・PC・スマホ世代となるのでネットを使用した広報も有効になる。

(4) 平成31年度金沢区「個性ある区づくり推進費」と予算案 金沢区地域振興課長 國分

5 懇親会

- (1) 挨拶 横浜市立大道中学校 校長 永山 泰士
- (2) 懇親会
- (3) 閉会の挨拶 金沢区福祉保健センター担当部長 栗原 敏也